

令和4年度 プロジェクト研究実績調査

	所属 校園	氏 名 (太字は附属学校部研究員)	プロジェクト名	神戸大学の研究協力者 (カッコは外部機関所属)	発表媒体 (学会発表・雑誌への投稿など自身が第一著者でないものも含む)	外部予算獲得実績	備 考
1	幼	田中孝尚	幼稚園教師のわざとしての教師の動線と思考内容との関連	浅田匡(早稲田大学)	未定		
2	幼	田中孝尚・浅原麻美・吉田柚子・川東佳歩・久保裕・長野萌映・吉田さくら	保育を構造的に思考し、子どもの資質・能力の発揮、伸長を自覚的に支える保育力を醸成する指導案フォーマット	北野幸子	「保育を構造的に思考し、子どもの資質・能力の発揮、伸長を自覚的に支える保育力を醸成する指導案フォーマット」『日本保育学会 第75回大会』ポスター発表		
3	幼	田中孝尚・浅原麻美・吉田柚子・川東佳歩・久保裕・長野萌映・吉田さくら	位置測位システムを活用した保育者の幼児理解への支援方法の開発	北野幸子	「位置測位システムを活用した保育者の幼児理解への支援方法の開発」『日本保育学会 第75回大会』ポスター発表		
4	幼	川東佳歩・田中孝尚・浅原麻美・吉田柚子・久保裕・長野萌映・吉田さくら	園と大学の連携協働による実習教育内容の検討 ―観察の在り方を中心に―	北野幸子	「園と大学の連携協働による実習教育内容の検討 ―観察の在り方を中心に―」『日本保育学会 第75回大会』ポスター発表		
5	幼	松山聖奈	What features of social work are needed in ECEC practices? 保育実践に必要なソーシャルワーク機能とは何か	北野幸子	「What features of social work are needed in ECEC practices?」『環太平洋乳幼児教育学会2022年大会』ポスター発表 「社会経済的背景を踏まえた子どもと家庭の支援に関する保育施設の役割 ―ソーシャルワーク機能に着目して―」『保育ソーシャルワーク学研究第8号・Pp.15-28.』論文 「保育者及び社会福祉士の養成カリキュラムにおける保育ソーシャルワークの位置付けに関する検討」『日本ソーシャルワーク学会第8回大会』口頭発表 「領域人間関係における保育者の専門性 ―保育ソーシャルワーク機能に着目して―」『保育者養成教育学会第7回大会』口頭発表		

令和4年度 プロジェクト研究実績調査

所属 校園	氏 名 (太字は附属学校部研究員)	プロジェクト名	神戸大学の研究協力者 (カッコは外部機関所属)	発表媒体 (学会発表・雑誌への投稿など自身が第一著者でないものも含む)	外部予算費獲得実績	備 考
1 小	赤川峰大	証明の基盤としての小学校算数科における説明活動	岡部恭幸(教授)	【学会発表】 「小学校段階における演繹的推論についての研究について —児童の推移律に関する理解の実態に焦点をあてて」『第55回秋期研究大会』口頭発表	なし	
2 小	中谷健人	投げること自体の楽しさを味わう「投の運動」の単元開発	前田正登(教授)	なし	なし	
3 小	田瀬知紗・俣野源晃	幼小接続期における指導に関する研究	渡邊隆信(教授) 川地亜弥子(准教授) 石川慎一郎(教授)	【学会シンポジウム発表】 「現代における資質・能力論とその評価1——初等教育における目標・評価——」『教育目標・評価学会第33回大会』公開シンポジウム「現代の教育における資質・能力の育成とその評価」	なし	
4 小	水谷智一	算数科における「式をよむ」ことの研究 —小中接続の視点から—	岡部恭幸(教授)	【学会発表】 「式の構造や関係をよむことに関する一考察-円の面積の実践をもとに-」『第55回秋期研究大会』論文発表	なし	
5 小	宮原 敏	スペンサー・ケーガン理論による全員参加の協同学習プログラムの開発	岡部恭幸(教授)	なし	なし	

令和4年度 プロジェクト研究実績調査

所属 校園	氏名 (太字は附属学校部研究員)	プロジェクト名	神戸大学の研究協力者 (カッコは外部機関所属)	発表媒体 (学会発表・雑誌への投稿など自身が第一著者でないものも含む)	外部予算費獲得実績	備 考
1 中等	<b>中川雅道</b>	哲学プラクティスと当事者研究の融合: マイノリティ当事者のための対話と支援の考察	稲原美苗・津田英二・松岡広路・村山 留美子・津田 英二・梶谷真司(東京大学)・高橋 綾(大阪大学)・池田高(明治大学)・本間 なほ(大阪大学)	・河野哲也・得居千照・永井玲衣・中川雅道ほか『ゼロからはじめる哲学対話: 哲学プラクティス・ハンドブック』共著、ひつじ書房、pp.40-50、151-174、令和2年10月 ・佐藤徹・田中高雄・岡本能里子・服部圭子・中川雅道・杉岡秀紀・宗田勝也・佐野亘・森本郁代・香取一昭・野村恭彦・中村香苗・村田和代『これからの話し合いを考えよう(シリーズ 話し合い学をつくる3)』共著、ひつじ書房、pp.21-43、令和2年12月18日 ・寺田俊郎・中岡成文・中川雅道ほか『哲学対話と教育(シリーズ臨床哲学、第5巻)』共著、大阪大学出版会、pp.97-111、283-323、令和3年2月 など多数	科学研究費補助金 基盤研究(B)(令和元年度～令和5年度) 研究代表者: 稲原美苗 共同研究者としての分担金390千円(直接経費300千円、間接経費90千円)	
2 中等	<b>中川雅道</b>	哲学資源としての漢文教材および学び方の開発に関する基礎的研究	研究代表者: 小路口真理美(研究代表者・大阪教育大学)・鶴成久章(福岡教育大学)・小路口 聡(東洋大学)	・中川雅道(2021)「古典を学ぶことは学びそのものである」『研究紀要: 神戸大学附属中等 論集』5巻、pp.17-22 ・立花佳澄、中川雅道(2021)「複数性を持つこと」『研究紀要: 神戸大学附属中等 論集』5巻、pp.7-15。	科学研究費補助金 基盤研究(C)(令和2年度～令和4年度) 研究代表者: 小路口真理美 共同研究者としての分担金351千円(直接経費270千円、間接経費81千円)	
3 中等	<b>中川雅道</b>	大学院生のための学際的探究コミュニティの創成と対話実践	稲原美苗・津田英二	稲原美苗・津田英二・中川雅道「大学院生のための学際的探究コミュニティの創成と対話実践」日本哲学プラクティス学会誌「思考と対話」第3号		
4 中等	<b>林兵馬</b> ・中時貴弘・中田雅之・吉田智也	高大データサイエンス連携教育	小澤誠一・首藤信通	「学校設定科目「DS」と課題研究との接続」第18回 統計教育の方法論ワークショップ・理数系教員授業力向上研修会		

令和4年度 プロジェクト研究実績調査

所属 校園	氏名 (太字は附属学校部研究員)	プロジェクト名	神戸大学の研究協力者 (カッコは外部機関所属)	発表媒体 (学会発表・雑誌への投稿など自身が第一著者でないものも含む)	外部予算費獲得実績	備 考
1	特支 猪原風希	障害者の文化芸術活動の実践分析に基づくエンバワメント評価及び支援システム開発研究	津田英二・稲原美苗・岡崎香奈・赤木和重・大田美佐子・清野未恵子・松岡広路	井上太一、猪原風希、津田英二「障害者の文化芸術活動におけるエンバワメントの過程～「思うようにならなさをめぐる表現者と支援者の葛藤の共振～」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』16(1)、2022年10月、pp.83-94(査読あり) 猪原風希「特別支援学校において「人間として尊厳をもって生きていくための教育」とは何か」基礎教育保障学会第7回研究大会(早稲田大学)2022年9月4日	科学研究費補助金 基盤研究(B)(平成30年度～令和4年度) 研究代表者:津田英二 共同研究者としての分担金300,000円	
2	特支 佐藤知子	地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築	前川浩子・小俣千智(兵庫県教育委員会)、崎濱昭彦(兵庫県健康福祉部)、津田英二		文部科学省委託研究 令和2年度「地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究」 分担金なし 令和4年度も継続	
3	特支 下木なつみ	小学生は授業スタンダードをどのようにとらえているか	赤木和重		科学研究費補助金(基盤(C))(令和2年度～令和4年度) 研究代表者:赤木和重 共同研究者としての分担金114,800円(内直接経費100,000円、間接経費14,800円)	
4	特支 江上 弘晃	成人期知的障害者家族におけるウェルビーイングへの「働くこと」・余暇の態度の影響	山根隆宏、原田新		科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽)(令和4年度～令和6年度) 研究代表者:山根隆宏 共同研究者としての分担金700,000円	
5	特支 佐藤知子	障害者スポーツ推進プロジェクト	三木孝(神戸市民福祉振興協会)、篠川裕子、秋末敬宏、種村瑞美、津田英二、増本康平、		文部科学省委託研究 令和4年度「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツ提供体制整備事業)」 分担金なし	
6	特支 黒川陽司	Mixed Realityを用いた知的障害事への手順支援	山本健太	日本特殊教育学会でのポスター発表	2022年度日本特殊教育学会研究奨励助成	

令和3年度 プロジェクト研究実績調査

所属 校 園	氏 名 (太字は附属学校部研究員)	プロジェクト名	神戸大学の研究協力者 (カッコは外部機関所属)	発表媒体 (学会発表・雑誌への投稿など自身が第一著者でないものも含む)	外部予算費獲得実績	備 考
1	田中孝尚	ICTとドキュメンテーションを活用した家庭との連携ツールの開発	北野幸子、島田かおり	ICTを活用したドキュメンテーションツールの開発～「おうちえん」についての機能強化、新展開に関わる共同研究～ 報告書	株式会社スマートエデュケーション共同研究費 3,300千円(2020年9月1日から2022年3月31日まで) 製品等に係る総売上額の3%相当額 なお、本件製品等に係る総売上額の算出にあたり、本件製品等の単価について、特定が困難な場合または2,000円を下回る場合、当該本件製品等の使用料は2,000円の3%相当額とする。無償期間を設定した場合は、2ヶ月を限度として当該本件製品等の使用料は無料とすることができる。2ヶ月を超えて無償期間を設定する場合は、当該本件製品等の使用料は2,000円の3%相当額とする(毎年度6月末2021年4月1日から2023年3月31日まで)	
2	田中孝尚・浅原麻美・吉田絃子・川東佳歩・久保裕・長野萌映・吉田さくら	令和3年度 文部科学省委託「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」ICTや先端技術の活用などを通じた幼児教育の充実の在り方に関する調査研究 位置測位システムを活用した幼児理解の深化と根拠に基づくカリキュラム・マネジメントによる実践の充実方法に関する調査研究	北野幸子・國土将平・岡部恭幸・渡邊隆信・村山留美子	報告書とパンフレット	文部科学省委託事業 令和2年度「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究(幼稚園における指導の在り方等に関する調査研究)調査研究テーマ:ICTや先端技術の活用などを通じた幼児教育の充実の在り方に関する調査研究 調査研究課題:位置測位データを活用した個々の幼児の育ちと学びの理解の深化と、教師の省察、家庭との連携の充実につながるICTの活用方法に関する調査研究 委託費 4,997,536円	
3	田中孝尚	幼稚園教師のわざとしての教師の動線と思考内容との関連	浅田匡(早稲田大学)	未定	科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽)、令和2年度～令和4年度、幼稚園教師のわざとしての教師の動線と思考内容との関連、田中孝尚、研究分担者、分担金 260千円(直接経費200千円、間接経費60千円)	
4	田中孝尚	客観性を高める過程が、主観的に感じたことの価値を高める	榎沢良彦(東京家政大学)・瀧川光治(大阪総合保育大学)・水津幸恵(三重大学)・永倉みゆき(静岡県立大学)・北野幸子	「実践研究へのいざないⅢ～主観性と客観性の対立を超える道を探る～ 客観性を高める過程が、主観的に感じたことの価値を高める」『日本保育学会 第74回大会』編集常任委員会シンポジウム話題提供		
5	田中孝尚・松本法尊・西岡美和子・吉田絃子・川東佳歩・久保裕	子ども達が互いに影響を及ぼし合いながら学びに至る過程を分析的に捉え、保育者の資質向上及びカリキュラム改善に資する実践記録フォーマット	北野幸子	「子ども達が互いに影響を及ぼし合いながら学びに至る過程を分析的に捉え、保育者の資質向上及びカリキュラム改善に資する実践記録フォーマット」『日本保育学会 第74回大会』ポスター発表		
6	田中孝尚・松本法尊・西岡美和子・吉田絃子・川東佳歩・久保裕	保育者の省察における位置測位データの活用方法の検討	北野幸子	「保育者の省察における位置測位データの活用方法の検討」『日本保育学会 第74回大会』ポスター発表		
7	吉田絃子	幼児の遊びの「ため込み」を促す環境設定と音・音楽を通じた表現の発展 一事例に基づいた保育者の語りの質的分析	小松原祥子(神戸女子短期大学)	「幼児の遊びの『ため込み』を促す環境設定と音・音楽を通じた表現の発展 一事例に基づいた保育者の語りの質的分析」神戸女子短期大学論叢 第67巻 1-16(2022)		

令和3年度 プロジェクト研究実績調査

	所属 校 園	氏 名 (太字は附属学校部研究員)	プロジェクト名	神戸大学の研究協力者 (カッコは外部機関所属)	発表媒体 (学会発表・雑誌への投稿など自身が第一著者でないものも含む)	外部予算費獲得実績	備 考
1	小	赤川峰大,東尚平	証明の基盤としての小学校算数科における説明活動	岡部恭幸	なし	なし	
2	小	友永達也,石田麻衣子,石倉慎也	コーパス言語学の分析技術を用いた小学校教科教育研究	石川慎一郎	【論文投稿(見込み)】『よく聞き・よく話せた』会話の相関属性及び言語特徴の解明』統計数理研究所共同研究レポート	なし	
3	小	高橋由衣,西尾鮎子,信田亜美,森田英夫,中谷健人	「メディアリテラシー」の育成を目指した学習プログラムの開発	目黒強	【学会発表】『挿絵を読解対象とした小学校国語科授業の一考察』『第24回日本教育実践学会』オンライン学会自由研究発表(発表者:高橋・西尾)	なし	
4	小	玉田 亮太	小学校算数科における高さ概念の研究	岡部恭幸	なし	なし	
5	小	宮原 献	スペンサー・ケーガン理論による全員参加の協同学習プログラムの開発	岡部恭幸	なし	なし	
6	小	古谷 亨仁,兼田奈保美	小学校社会科におけるゲーミング教材の社会実装について	吉永潤	なし	なし	
7	小	山口智史,田淵知紗,畠野創一郎,濑野哲,(俣野源晃)	幼小接続期における指導方法に関する研究	渡邊隆信 川地重弥子	【学会発表】『幼小連携における資質・能力の評価とその効果検証——通知表に関する保護者アンケートから——』『教育目標・評価学会 第32回大会』自由研究発表	なし	
8	小	勝本恵美	教科と連携を図った食育実践の教育効果	加藤佳子	なし	なし	

令和3年度 プロジェクト研究実績調査

	所属 校園	氏 名 (太字は附属学校部研究員)	プロジェクト名	神戸大学の研究協力者 (カッコは外部機関所属)	発表媒体 (学会発表・雑誌への投稿など自身が第一著者でないものも含む)	外部予算費獲得実績	備 考
1	中等	石丸幸勢・大谷麻子・藤原真由美・長谷川亜紀・永野和美	ヘルスプロモーション	加藤佳子	令和2年度神戸大学附属中等教育学校論集「ヘルスプロモーションの理念に基づく健康教育の実践:教科横断的研究」		
2	中等	永野和美	健康あーち	加藤佳子	令和3年度神戸大学附属中等教育学校論集に掲載予定		
3	中等	永野和美	ESDFoodプロジェクト	近江戸伸子	令和3年度神戸大学附属中等教育学校論集に掲載予定		
4	中等	中川雅道	哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察	稲原美苗・津田英二・松岡広路・村山 留美子・津田 英二・梶谷真司(東京大学)・高橋 綾(大阪大学)・池田喬(明治大学)・本間 なほ(大阪大学)	・河野哲也・得居千照・永井玲衣・中川雅道ほか『ゼロからはじめる哲学対話:哲学プラクティス・ハンドブック』共著、ひつじ書房、pp.40-50, 151-174、令和2年10月 ・佐藤徹・田中富雄・岡本能里子・服部圭子・中川雅道・杉岡秀紀・宗田勝也・佐野亘・森本郁代・香取一昭・野村恭彦・中村香苗・村田和代『これからの話し合いを考えよう(シリーズ話し合い学をつくる3)』共著、ひつじ書房、pp. 21-43、令和2年12月18日 ・寺田俊郎・中岡成文・中川雅道ほか『哲学対話と教育(シリーズ臨床哲学、第5巻)』共著、大阪大学出版会、pp.97-111, 283-323、令和3年2月 など多数	科学研究費補助金 基盤研究(B)(令和元年度～令和5年度) 研究代表者:稲原美苗 共同研究者としての分担金390千円(直接経費300千円、間接経費90千円)	
5	中等	中川雅道	哲学資源としての漢文教材および学び方の開発に関する基礎的研究	研究代表者:小路口真理美(研究代表者:大阪教育大学)・鶴成久章(福岡教育大学)・小路口聡(東洋大学)	・中川雅道(2021)「古典を学ぶことは学びそのものである」『研究紀要:神戸大学附属中等論集』5巻、pp.17-22 ・立花佳澄、中川雅道(2021)「複数性を持つこと」『研究紀要:神戸大学附属中等論集』5巻、pp.7-15。	科学研究費補助金 基盤研究(C)(令和2年度～令和4年度) 研究代表者:小路口真理美 共同研究者としての分担金351千円(直接経費270千円、間接経費81千円)	
6	中等	中川雅道	大学院生のための学際的探究コミュニティの創成と対話実践	稲原美苗・津田英二	稲原美苗・津田英二・中川雅道「大学院生のための学際的探究コミュニティの創成と対話実践」日本哲学プラクティス学会誌「思考と対話」第3号		
7	中等	林兵馬・中時貴弘・中田雅之・吉田智也	高大データサイエンス連携教育	齋藤政彦・小澤誠一・栗尾孝・稲葉太一	「学校設定科目「DS」と課題研究との接続」第18回 統計教育の方法論ワークショップ・理数系教員授業力向上研修会		
8	小中等	石丸幸勢・森田英夫・宮原献	子どもの生活習慣と身体・認知発達に関する研究	石原暢			校種間接続研究として、令和3年度科研費基盤研究(B)に応募するが不採択となった。

令和3年度 プロジェクト研究実績調査

所属 校 園	氏 名 (太字は附属学校部研究員)	プロジェクト名	神戸大学の研究協力者 (カッコは外部機関所属)	発表媒体 (学会発表・雑誌への投稿など自身が第一著者でないものも含む)	外部予算費獲得実績	備 考
1	特支 猪原風希	障害者の文化芸術活動の実践分析に基づくエンバワメント評価及び支援システム開発研究	津田英二・稲原美苗・岡崎香奈・赤木和重・大田美佐子・清野未恵子・松岡広路	猪原風希・津田英二「障害児に自己表現を教えるということ―特別支援学校美術科での教師の葛藤を題材に―」基礎教育保障学会第6回研究大会(WEB開催)2021年9月18日	科学研究費補助金 基盤研究(B)(平成30年度～令和4年度) 研究代表者:津田英二 共同研究者としての分担金なし	
2	特支 佐藤知子	地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築	前川浩子・小俣千智(兵庫県教育委員会), 崎濱昭彦(兵庫県健康福祉部), 津田英二		文部科学省委託研究 令和2年度「地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究」 分担金なし	
3	特支 下木なつみ	小学生は授業スタンダードをどのようにとらえているか	赤木和重		科学研究費補助金(基盤(C)(令和2年度～令和4年度) 研究代表者:赤木和重 共同研究者としての分担金114,800円(内直接経費100,000円、間接経費14,800円)	
4	特支 江上 弘晃	成人期知的障害者家族におけるウェルビーイングへの「働くこと」・余暇の態度の影響	山根隆宏、原田新		科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽)(令和4年度～令和6年度) 研究代表者:山根隆宏 共同研究者としての分担金700,000円	
5	特支 佐藤知子	障害者スポーツ推進プロジェクト	三木孝(神戸市民福祉振興協会)、篠川裕子、秋末敏宏、種村瑠美、津田英二、増本康平、		文部科学省委託研究 令和4年度「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツ提供体制整備事業)」 分担金なし	
6	特支 黒川陽司	Mixed Realityを用いた知的障害事への手順支援	山本健太	日本特殊教育学会でのポスター発表	2022年度日本特殊教育学会研究奨励助成	



令和2年度 プロジェクト研究実績調査

所属 校 園	氏 名 (太字は附属学校部研究員)	プロジェクト名	神戸大学の研究協力者 (カッコは外部機関所属)	発表媒体 (学会発表・雑誌への投稿など自身が第一著者でないものも含む)	外部予算費獲得実績	備 考
1 幼	田中孝尚	ICTとドキュメンテーションを活用した家庭との連携ツールの開発	北野幸子・島田かおり	ICTを活用したドキュメンテーションツールの開発 ～「おうちえん」についての機能強化、新展開に関わる共同研究～ 中間報告書	株式会社スマートエデュケーション 共同研究費 3,300千円(令和2年9月1日～令和4年3月31日)	
2 幼	田中孝尚・西山隆子・西岡美和子・松 本法尊・吉田綾子・川東佳歩・久保裕	ICTや先端技術の活用などを通じた幼児教育の充実のあり方に関する調査研究 位置測位データを活用した個々の幼児の育ちと学びの理解の深化と、教師の省察、家庭との連携の充実につながるICTの活用方法に関する調査研究	北野幸子・國土将平・岡部恭幸・渡邊隆信・長 谷川諒	令和2年度 文部科学省委託事業 幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究 ・「ICTya先端技術の活用などを通じた幼児教育の充実のあり方に関する調査研究 位置測 位データを活用した個々の幼児の育ちと学びの理解の深化と、教師の省察、家庭との連携 の充実につながるICTの活用方法に関する調査研究」報告書 ・「これからの幼児教育とICTの活用(2)位置測位データを活用した個々の幼児の育ちと学び の理解の深化と、教師の省察、家庭との連携の充実につながるICTの活用方法に関する調 査研究」パンフレット	文部科学省委託事業 令和2年度 幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研 究(幼稚園における指導の在り方等に関する調査研究) 委託費 4,997,536円	
3 幼	田中孝尚	幼稚園教師のわざとしての教師の動線と思考内容との関連	浅田匡(早稲田大学)		科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽)(令和2年度～令和4年度) 研究代表者:浅田匡 共同研究者、分担金 130千円(直接経費100千円、間接経費30千円)	
4 幼	田中孝尚・松本法尊・沼田祥子	幼小接続カリキュラムの創造	長谷川諒・北野幸子	「幼小を接続する資質・能力カリキュラムの創造(1) —概要を中心に—」『日本保育学会 第 73回大会』ポスター発表		
5 幼	松本法尊・田中孝尚・沼田祥子	幼小接続カリキュラムの創造	長谷川諒	「幼小を接続する資質・能力カリキュラムの創造(2) —実践を中心に—」『日本保育学会 第 73回大会』ポスター発表		
6 幼	田中孝尚・松本法尊・沼田祥子	ICTを活用した遊び場面における個々の子どものセンシング方法 の開発	北野幸子	「ICTを活用した遊び場面における個々の子どものセンシング方法の開発」『日本保育学会 第73回大会』ポスター発表		
7 幼	田中孝尚・松本法尊・西岡美和子・吉 田綾子・川東佳歩・久保裕	位置測位システムを活用した遊び場面における保育者の援助の 可視化方法の開発	北野幸子・國土将平・長谷川諒	「位置測位システムを活用した遊び場面における保育者の援助の可視化方法の開発」『日本 乳幼児教育学会 第30回大会』ポスター発表		
8 幼	田中孝尚・松本法尊	好きな遊びの時間における一人ひとりの子どもの行動の実態— 位置測位データを活用して—	北野幸子	「好きな遊びの時間における一人ひとりの子どもの行動の実態—位置測位データを活用して —」『日本乳幼児教育学会 第30回大会』ポスター発表		
9 幼	田中孝尚・松本法尊	生活発表会を通じた子どもの育ちや学びと保育者の専門性につ いて—K幼稚園の生活発表会の実践を通して—	北野幸子	「生活発表会を通じた子どもの育ちや学びと保育者の専門性について—K幼稚園の生活発 表会の実践を通して—」『日本乳幼児教育学会 第30回大会』ポスター発表		

令和2年度 プロジェクト研究実績調査

所属 校 園	氏 名 (太字は附属学校部研究員)	プロジェクト名	神戸大学の研究協力者 (カッコは外部機関所属)	発表媒体 (学会発表・雑誌への投稿など自身が第一著者でないものも含む)	外部予算費獲得実績	備 考
1	小 赤川峰大	証明の基盤としての小学校算数科における説明活動	岡部恭幸	小学校図形領域における演繹的推論についての研究: 仮言的三段論法と普遍例化に焦点をあてて, 数学教育学会誌61巻1・2号, pp.39-47, 2020		
2	小 田中達也	個人的な関係に基づく「共同研究」	神山真一(大阪体育大学・神戸大学)・山本智一(兵庫教育大学)・山口悦司	児童におけるアークメント自己評価能力とアークメント構成能力の関係性についての予備的検討: 主張-証拠-理由付けを含むアークメントを導入した小学校第3学年の単元「物と重さ」の事例, 日本理科教育学会, 理科教育学研究62-1		
3	小 俣野源晃	個人的な関係に基づく「共同研究」	山本智一(兵庫教育大学)・山口悦司・坂本美紀・神山真一(大阪体育大学・神戸大学)	複数の証拠を利用するアークメント構成能力の育成: 小学校第5学年「電流が流れる磁力」の事例, 日本理科教育学会, 理科教育学研究62-1		
4	小 田中達也・内海紗恵	ICT機器を活用した小学校低学年における避難行動決定のプロセスの研究	寺田努			
5	小 友永達也	質の高い納得や合意形成に至る会話の言語的特徴の分析	石川慎一郎			
6	小 高橋由衣・西尾鮎子・信田亜美	「メディアリテラシー」の育成を目指した学習プログラムの開発	目黒強			
7	小 藤中寛子・奥村彩世	自己肯定感の育成や自己の感情理解を促す初等道徳教育の研究-イギリスにおけるP S H E(Personal, Social and Health Education)を手がかりに-	渡邊隆信			
8	小 玉田 亮太	小学校算数科における高さ概念の研究	岡部恭幸			
9	小 東尚平	発展的な考え方の育成を重視した小学校算数科における授業について	岡部恭幸			
10	小 宮原 献・中上はるな	スペンサー・ケーガン理論による全員参加の協同学習プログラムの開発	岡部恭幸			
11	小 古谷亨仁	小学校社会科におけるゲーミング教材の社会実装について	吉永潤			
12	小 俣野源晃・田淵知紗・山口智史・畠野創一郎	幼小接続期における指導方法に関する研究	渡邊隆信・川地亜弥子			
13	小 勝本恵美	教科と連携を図った食育実践の教育効果	加藤佳子			

令和2年度 プロジェクト研究実績調査

所属 校 園	氏 名 (太字は附属学校部研究員)	プロジェクト名	神戸大学の研究協力者 (カッコは外部機関所属)	発表媒体 (学会発表・雑誌への投稿など自身が第一著者でないものも含む)	外部予算費獲得実績	備 考
1 中等	石丸幸勢・大谷麻子・藤原真由美・長谷川亜紀・永野和美	ヘルスプロモーション	加藤佳子	令和2年度神戸大学附属中等教育学校論集「ヘルスプロモーションの理念に基づく健康教育の実践:教科横断的研究」		
2 中等	永野和美	健康あーち	加藤佳子	令和3年度神戸大学附属中等教育学校論集に掲載予定		
3 中等	永野和美	ESDFoodプロジェクト	近江戸伸子	令和3年度神戸大学附属中等教育学校論集に掲載予定		
4 中等	中川雅道	哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察	稲原美苗・津田英二・松岡広路・村山 留美子・津田 英二・梶谷真司(東京大学)・高橋 綾(大阪大学)・池田喬(明治大学)・本間 なほ(大阪大学)	・河野哲也・得居千照・永井玲衣・中川雅道ほか『ゼロからはじめる哲学対話:哲学プラクティス・ハンドブック』共著、ひつじ書房、pp.40-50、151-174、令和2年10月 ・佐藤徹・田中富雄・岡本能里子・服部圭子・中川雅道・杉岡秀紀・宗田勝也・佐野亘・森本郁代・香取一昭・野村恭彦・中村香苗・村田和代『これからの話し合いを考えよう(シリーズ話し合い学をつくる3)』共著、ひつじ書房、pp. 21-43、令和2年12月18日 ・寺田俊郎・中岡成文・中川雅道ほか『哲学対話と教育(シリーズ臨床哲学、第5巻)』共著、大阪大学出版会、pp.97-111、283-323、令和3年2月 など多数	科学研究費補助金 基盤研究(B)(令和元年度~令和5年度) 研究代表者:稲原美苗 共同研究者としての分担金390千円(直接経費300千円、間接経費90千円)	
5 中等	中川雅道	哲学資源としての漢文教材および学び方の開発に関する基礎的研究	研究代表者:小路口真理美(研究代表者:大阪教育大学)・鶴成久章(福岡教育大学)・小路口聡(東洋大学)	・中川雅道(2021)「古典を学ぶことは学びそのものである」『研究紀要:神戸大学附属中等論集』5巻、pp.17-22 ・立花佳澄、中川雅道(2021)「複数性を持つこと」『研究紀要:神戸大学附属中等論集』5巻、pp.7-15。	科学研究費補助金 基盤研究(C)(令和2年度~令和4年度) 研究代表者:小路口真理美 共同研究者としての分担金351千円(直接経費270千円、間接経費81千円)	
6 中等	中川雅道	大学院生のための学際的探究コミュニティの創成と対話実践	稲原美苗・津田英二	稲原美苗・津田英二・中川雅道「大学院生のための学際的探究コミュニティの創成と対話実践」日本哲学プラクティス学会誌「思考と対話」第3号		
7 中等	林兵馬・中時貴弘・中田雅之・吉田智也	高大データサイエンス連携教育	齋藤政彦・小澤誠一・栗尾孝・稲葉太一	「学校設定科目「DS」と課題研究との接続」第18回 統計教育の方法論ワークショップ・理数系教員授業力向上研修会		
8 小 中等	石丸幸勢・森田英夫・宮原献	子どもの生活習慣と身体・認知発達に関する研究	石原暢			校種間接続研究として、令和3年度科研費基盤研究(B)に応募するが不採択となった。

令和2年度 プロジェクト研究実績調査

所属 校 園	氏 名 (太字は附属学校部研究員)	プロジェクト名	神戸大学の研究協力者 (カッコは外部機関所属)	発表媒体 (学会発表・雑誌への投稿など自身が第一著者でないものも含む)	外部予算費獲得実績	備 考
1	特支 佐藤知子・猪原風希	障害者の文化芸術活動の実践分析に基づくエンパワメント評価及び支援システム開発研究	津田英二・稲原美苗・岡崎香奈・赤木和重・大田美佐子・清野未恵子・松岡広路	・井上太一・猪原風希・辻合悠・津田英二「非対称的関係の学習論：障害者の教育実践が提起する学びの形」『神戸大学大学院人間発達環境学研究所研究紀要』第14巻2号、令和3年3月、pp.59-67、査読なし ・佐藤知子「共感的な舞台」日韓交流セミナー『知的障害者の舞台芸術活動とその支援』(オンライン) 令和2年12月19日	科学研究費補助金 基盤研究(B)(平成30年度～令和4年度) 研究代表者：津田英二 共同研究者としての分担金なし	
2	特支 西堂直子	地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築	前川浩子・小俣千智(兵庫県教育委員会)、崎濱昭彦(兵庫県健康福祉部)、津田英二		文部科学省委託研究 令和2年度「地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究」 分担金なし	
3	特支 下木なつみ	小学生は授業スタンダードをどのようにとらえているか	赤木和重		科学研究費補助金(基盤(C))(令和2年度～令和4年度) 研究代表者：赤木和重 共同研究者としての分担金114,800円(内直接経費100,000円、間接経費14,800円)	